



【学校教育目標】 仲間とともに自ら未来を拓こうとする子どもの育成



## 終わりを大事に

校長 花田 修

2023年(令和5年)がスタートし、年度末を迎えるこの約3か月は、まさに、いく・逃げる・去るの如く、瞬く間に過ぎ去っていきます。学校にとって、卒業、修了は終わりという意味もあり、始まりへの節目でもあります。

今年度の授業がスタートしてから9割5分ほどが過ぎたことになります。この時期になると「百里を行く者は、九十を半ばとす」が頭をよぎります。



これは、古代中国の書物にある「戦国策」にある言葉です。「何事も終わり間際ほど不測の事態が多いため、九分までたどり着いたところで、ようやく半分と考えて、最後まで気を抜いてはならない。」という意味です。このことから、私は「この1年を振り返り、失敗を成功の糧にすること。マイナスをプラスに変えるための具体策を必ず準備すること。」という意味にも解釈して自身へ言い聞かせています。

ゴールが見えてくると、元気も出てくるし、気力も沸き上がりますが、詰めの甘さや緩みも同時に生じてくることもあります。

今年度のまとめの時期を大切に過ごして、有終の美を飾れるよう、児童も教職員もともに全力でゴールを駆け抜けたと思います。



## 調べたい!を追求し、学びを深める



3月2日の児童朝会で1年生 若狭華月さんがチャレンジ学習について発表しました。「田んぼに動物の足あとがある。何の動物の足あとだろうか。」と問いを持ち、自分で図鑑やタブレットを使い調べ、その正体を明らかにする過程を文章や絵、写真などでまとめていました。また、その正体がたぬきであることをつきとめると、そこから「たぬきはパンやみかんを食べるのだろうか?」とさらに問いを持ち、実験とその結果もノートにまとめていきました。このように好奇心をふくらませながら、たぬき以外にも野外に見られる動物の痕跡に興味関心を広げ、自ら学びを進めていました。全校児童にとっても、どのようにチャレンジ学習を進めていけばよいのかといった学び方を知る貴重な機会となりました。



## 2つの団体賞を受賞しました!

**第82回全国教育美術展 教育委員会賞**  
**第53回世界児童画展 都道府県団体賞**

どちらの作品展にも全国の学校から多くの作品が寄せられ、本校からも児童の作品を応募しました。そんなたくさんの作品の中で、本校の子どもたちの作品が高く評価され、学校賞である教育委員会賞と都道府県団体賞を受賞しました。



「世界児童画展」

|    |    |       |    |       |    |       |
|----|----|-------|----|-------|----|-------|
| 特選 | 1年 | 川上 琉生 | 1年 | 安原 琉晟 | 6年 | 結城 志歩 |
| 入選 | 1年 | 横山 葵乃 | 5年 | 武 璃子  |    |       |
|    | 3年 | 土居 龍也 | 6年 | 藤原 和子 |    |       |
|    | 3年 | 唐川 理帆 | 6年 | 村内 亮太 |    |       |
|    | 4年 | 棗田 大瑛 | 6年 | 宮本 幸兔 |    |       |

「青少年読書感想文広島県コンクール」

入選 1年 池田 葵依

「中国幼美展」

特別賞 5年 中村 瞭子

「福山学校元気大賞」

あなたの挑戦がすばらしい

1年 若狭 華月

1年 渡邊 史成

